

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

- 新学習指導要領を見据えた授業の充実を図る。
- 生徒一人ひとりが「わかる授業」を実現する。
- グループごとの調べ学習や話し合い活動、発表学習の推進を図る。
- 個に応じた指導や支援をより一層進める。
- 家庭学習の充実を図る。

＜本年度の学力向上策＞

＜国語＞

- ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項をより強化していくため、年間を通して漢字練習（小テスト）を実施し、基礎的な言語に関する習得を目指す。
- ・生徒の思考を深める話し合い活動になるように、発問やテーマに工夫を行い、また、発表の方法もドラマ化や手紙文にしたりする中で、生徒の興味関心を高められるようにする。

＜数学＞

- ・小テストや単元ごとのテストを実施し、基礎学力の確実な定着を図る。
- ・数学的な見方、考え方や応用力を育成するために、日常の事象において、与えられた情報を目的に応じて図や表などに表し、適切に処理し、問題を解決する活動を取り入れる指導を実施する。

＜社会＞

- ・新聞等を活用した課題解決的な学習や、社会的事象の関連や因果関係などを考える授業を意図的・計画的に取り入れ、複数の資料を読み取り、多角的・多面的に考察していく。
- ・世の中の出来事に対する関心も個々に大きな違いがあるため、家庭と協力しながら、積極的に新聞を活用して時事問題を分析していく学習も取り入れる。

＜理科＞

- ・ワークシートを活用して、重要語句の確認をし、基礎学力の確実な定着を図る。
- ・実験を主体的に取り組む生徒が多くいるので、興味関心をもたせて、科学的な探求能力や問題解決能力をさらに高めていく。

＜G・S＞

- ・会話やスピーチなどのスピーキング活動の量を増やし、表現する力とコミュニケーション力の向上に努める。
- ・実際のコミュニケーションではその場の状況や相手の表情やジェスチャー、文脈など様々な情報から正確な情報を理解する力をつける学習を進めていく。

＜その他＞

- ・テスト前、テスト前以外での適切な時期にも補習を継続的に実施する。
- ・「学習の道しるべ」を積極的に活用することにより、事前指導、事後指導を充実させ、定期テストに活かす。
- ・「オンリーワンノート」などの取組を通して、家庭との連携をより一層密に行い、基礎学力の確実な定着を図る。